

WEB版「エリン」は世界の日本語学習者から どのように受け入れられたか

—アンケート調査に見るユーザー評価—

羽吹幸・長田優子・磯村一弘

[キーワード] WEB版「エリン」の開発、アクセスログ、アンケート調査、教材の無償提供、多言語化

[要旨]

映像教材「エリンが挑戦！にほんごできます。」は、「日本語学習」と「文化理解」を目標とした映像素材を提供することを意図して制作された教材で、テレビ版、DVD教材、WEB版とメディアを変えて展開してきた。本稿では2010年から公開しているWEB版のアクセスログと2回のユーザー評価の結果を元に、WEB版「エリン」が世界の日本語学習者からどのように受け入れられたかを考察する。アクセスログによる利用状況では、継続的にページビュー数を増やし、かつ明確な目的を持ったユーザーに利用されている様子が伺える。2回のアンケート調査では非常に高い肯定的評価が得られた。特に、独学に適したコンテンツやインタラクティブな学習方法が評価されており、サイトの制作意図が効果的に活かされていることがわかった。今後は多言語化や画面仕様の改修によりサイトのユーザビリティを高め、さらに多くのユーザー獲得を目指していきたい。

1. WEB版「エリンが挑戦！にほんごできます。」開発の背景とねらい

1.1 教材開発の背景とねらい

映像教材「エリンが挑戦！にほんごできます。」(以下「エリン」)は、国際交流基金がNHKエデュケーショナルと共同で開発した中等教育向けの映像教材である。教材では、日本語の実際の使用場面で「～ができる」というCan-doの形で示した「日本語学習」の目標と、日本のさまざまな生の映像を見せることで日本文化について考え、自文化と比較し、さらには世界の文化の多様性を認められるようになることを目指した「文化理解」の目標が二本柱として重視されている。教材の制作にあたっては、主なターゲットである海外の高校生ができるだけ満足して使えるよう、事前にアンケートとインタビューによってニーズ調査を行い、その結果を反映させた(築島2010)。

国際交流基金がこうした映像教材を開発した背景として、海外の中等教育段階における日本語学習者の増加が挙げられる(国際交流基金2011)。また海外の教育現場の多様化という背景から、「各教育現場で使えるところを使いたい方法で自由に使う」ということを想定した「映

像素材」として提供することを意図して制作された（磯村他2006、築島2007a、2007b、久保田他2008、三原2008）。

1.2 教材の展開

2006年10月からまずNHK 教育テレビ（現「Eテレ」）の語学講座として放映を開始した「エリン」は、テレビ番組としてはその後2011年3月までNHK 教育テレビで計9回放送されただけでなく、NHK ワールドでも放送され、また海外では2012年9月現在までに10ヵ国13の放送局で字幕または吹き替え版として放送された。ベトナムやフィンランドなどにおいては、現地の放送局により独自の内容が付け加えられている。

一方、2007年にはこの映像教材を、テレビ放送されなかった映像を含めたDVD付き日本語教材（築島他2007）として発売した。このDVD教材では、スキットの映像に日本語、英語、ポルトガル語、韓国語、中国語の字幕を付けたほか、テキストにスクリプトや解説、練習問題を加えた。2012年9月現在、全3巻（NTSC版、PAL版）累計で約25,300部を発行している。また2009年には、タイの出版社からタイ語翻訳版が出版されている。

そして2010年の3月末に、映像教材の映像を無料公開し、さらに独自のコンテンツを追加したWEB版（<http://erin.ne.jp/>）を公開した（赤澤2010a、2010b）。日本語版の公開から1ヵ月遅れて英語版を公開し、さらにその1年後、ポルトガル語、スペイン語、韓国語、中国語版を追加した。2012年10月にはこれらの言語に加えてフランス語版とインドネシア語版が追加された。公開から2年5ヵ月を経た2012年8月には1千万ページビュー⁽¹⁾（以下、図表中では「PV」と記載する）を達成した。

以上のように、テレビ放映として出発した「エリン」は、その後DVD、WEBとメディアを変えて展開し、それぞれの媒体ごとに、新たなユーザーを増やしている。またWEBで「エリン」を知った海外の教師が教室用にDVDを購入するなど、メディア展開による相乗効果も見られる。

表1：「エリン」のメディア展開

	TV版	DVD教材	WEB版
2006	10月：日本国内放送開始（2011年3月まで）		
2007	アメリカ（ハワイ州、～現在）、カナダ（2010年7月31日まで ⁽²⁾ ）で放送開始	6月：第1巻発行 9月：第2巻発行 10月：第3巻発行	
2008	モンゴル（2010年10月31日まで）、ベトナム（ホーチミン市、2010		

WEB版「エリン」は世界の日本語学習者からどのように受け入れられたか

	年12月31日まで)、ラオス(2011年9月30日まで)、ベトナム(ハノイ市、2011年11月20日まで)で放送開始		
2009	インドネシア(2011年12月31日まで)、ブラジル(サンパウロ市、2009年7月31日まで)、アメリカ(南カリフォルニア、～現在)、スリランカ(2011年12月31日まで)で放送開始	タイ語版発行	11月：制作開始
2010	韓国(～現在)、フィンランド(～現在)、ブラジル(モジダス・クルーゼス市、～現在)で放送開始		3月：WEB版(日本語版)公開 4月：英語版公開
2011		11月：第3巻 第2版発行	4月：スペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国語版公開
2012			8月：1千万PV達成 10月：フランス語、インドネシア語版公開

1.3 WEB版のねらいとコンテンツの概要

映像教材は主に教師が教室で「素材」として使用することを想定していたが、これをWEB化するにあたっては、学習者がサイトに家から一人でアクセスして学習を進めるという使用形態を前提とした。学習者については、ゼロレベルを含めてさまざまな日本語学習歴を持つ学習者がアクセスすることを考え、スキット以外の全てのコンテンツに字幕をつけ、自由に切り替えられるようにしたほか、説明の詳細化、練習問題の充実に力を入れた。

また、WEBというメディアの特徴を生かすため、字幕の切り替えや練習問題の自動採点だけでなく、独自コンテンツとしてゲームやクイズを加え、できるだけインタラクティブなサイトとなることを目指した(磯村2010)。

「エリン」はもともと、目的の異なる各コーナーを集めた形式である「マガジスタイル」で構成されていた(久保田他2008)が、WEB化にあっても、これらのコーナーごとにコンテンツを作り、ユーザーの目的に合わせて使いたい部分を自由に使えるサイトとなることを目指した。コンテンツの内容は、以下の通りである。

表2：WEB版のコンテンツ(田中他2010より一部省略、加筆)

<p>▼「基本スキット」「応用スキット」</p> <p>▽動画の再生：留学生や日本人が日本で日本語を使う場面を見せるミニドラマ。</p> <p>▽スクリプト：語句・文型の解説、音声再生、mp3音声のダウンロード。</p>
--

- ▽マンガ(「基本スキット」のみ) : 台詞の再生、「マンガで覚えるオノマトペ」。
- ▽確認問題: 正誤、選択、穴埋め、要約、マンガ台詞入れ、マンガ並べ替え。
- ▼「大切な表現」
 - ▽動画の再生: 課の「Can-do」に必要なキーフレーズを、CG キャラが解説。
 - ▽解説&例文: キーフレーズの解説、例文(音声付き)。
 - ▽いろいろな使い方: 様々な人物による、キーフレーズの使用場面の動画。
 - ▽練習問題: キーフレーズの練習問題(文型練習、絵問題、聴解問題など)。
- ▼「これは何?」
 - ▽写真によるクイズ: 写真を見て、それが何かを選択する。
 - ▽動画の再生: 日本のおもしろいもの、めずらしいものを動画で紹介。
- ▼「見てみよう」
 - ▽動画の再生: 日本文化の様々なトピックを、動画によって解説。
 - ▽写真解説: 動画から切り出した写真とその解説。名称のバルーン表示。JPG ファイルのダウンロード可能。
 - ▽文化クイズ: 課のトピックと関連した、25のジャンルの選択式クイズ。
- ▼「やってみよう」
 - ▽動画の再生: 日本のいろいろなことに外国人が挑戦した動画。
 - ▽手順解説: やり方を解説したシート。印刷して使用可能。
 - ▽ゲーム: 日本文化をバーチャルに体験できる25のゲーム。
- ▼「ことばをふやそう」
 - ▽ことばリスト: 課のトピックと関連した語彙とイラスト。音声と英訳付き。
 - ▽練習問題: 語彙とイラストのマッチング練習。
- ▼ログイン後の画面
 - メールアドレス、国・地域、ニックネームのユーザー登録をすると、以下のより便利な機能が利用できる。
 - ▽「私のページ」: 登録情報の確認、変更。
 - ▽「学習の記録」: 自身の学習状況(コンテンツの閲覧状況やクイズ正解率等)の記録、保存機能。
 - ▽アバター: キャラクター、髪型、服装等の設定、登録。サイト学習によって得たポイントで新たなアイテムを獲得。
 - ▽ユーザーランキング: サイト学習によって得たポイントのランキング。上位のユーザーは、トップページに表示される。
 - ▽ゲーム「にほんごクエスト」: 設定したアバターとして仮想空間の町で日本語を使って会話や買い物などができるロールプレイングゲーム。
 - ▽特典ダウンロード: WEB 版独自のグッズ(あいうえお表、カレンダー)がダウンロード可能。

2. アクセスログの概要

2.1 利用状況

2010年3月31日から2012年8月末時点でのWEB版の利用状況を見ると、201の国・地域からアクセスがあり、総ページビュー数は10,130,605に達している。サイト訪問時の平均滞在時

WEB版「エリン」は世界の日本語学習者からどのように受け入れられたか

間は10分22秒で、平均して1回のアクセスにつき7.37のページビューを得ている。サイトの1ページだけを閲覧してすぐ離脱する直帰率は36.79%で、一般的なサイトと比べてそれほど高くないことから、明確な目的を持ったユーザーが本サイトにアクセスしていることがわかる。新規訪問の割合も42.92%で持続的に新規ユーザーを得ていると言える。

図1は、公開から2012年8月末までの月別ページビュー数の推移を表したものである。国際交流基金が開発運営している日本語教育関連サイトである「みんなの教材サイト (<http://minnanokyozaai.jp/>)」や「みんなのCan-do サイト (<http://jfstandard.jp/cando/>)」と同様、WEB版「エリン」も夏休み期間と年末に落ち込む傾向があるが、それ以外の時期では継続して増えており、特に9月以降に大きく伸びる傾向があることがわかる。

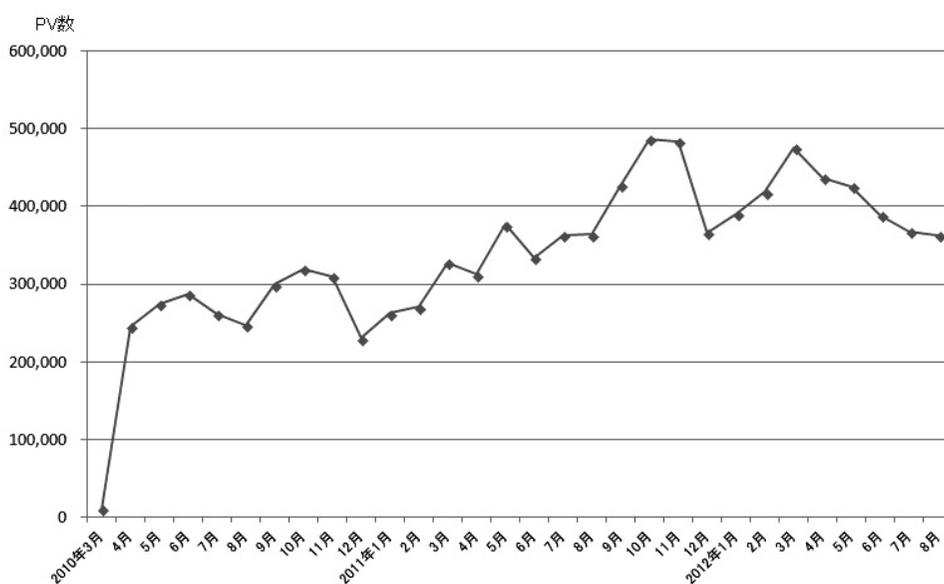


図1：WEB版「エリン」月別PV数の推移

この図では2011年5月が、その前後と比べると数値が高くなっている。これは、2011年4月に行った「多言語化」（それまでの日本語、英語版に、新たにスペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国語の4言語を追加公開したこと）に加えて、突発的なアクセスが集中したことに原因がある。本サイトにおける2011年5月のアクセスログを解析したところ、あるソーシャルブックマークサービスサイトからの流入が同月全体のページビューの中の約5.8%を占めていたことがわかった。同サイトから流入したユーザーは5月7日に最も多かったが、直帰率が84%であったことから同月は異常値と思われる。翌月からは正常値に戻り、その後「多言語化」の効果が徐々に現れ始めた。

2.2 利用状況の分析

2.2.1 「多言語化」とその効果

本サイトは2010年4月末に、それまでの日本語、英語版に加えて新たにスペイン語、ポルトガル語、中国語、韓国語の4言語を追加する「多言語化」を行い、2012年8月末現在、全6言語版のサイトとしての運用を行っている。「多言語化」前後でのページビュー数を比較してみると、対象言語を使用している国からのアクセス数がどの言語も大幅に伸びていることがわかる。特に、ポルトガル語圏（ブラジル、ポルトガル）の伸び率が著しく高く、本サイトの多言語化においてはポルトガル語の効果が最も顕著であったことが確認できた。

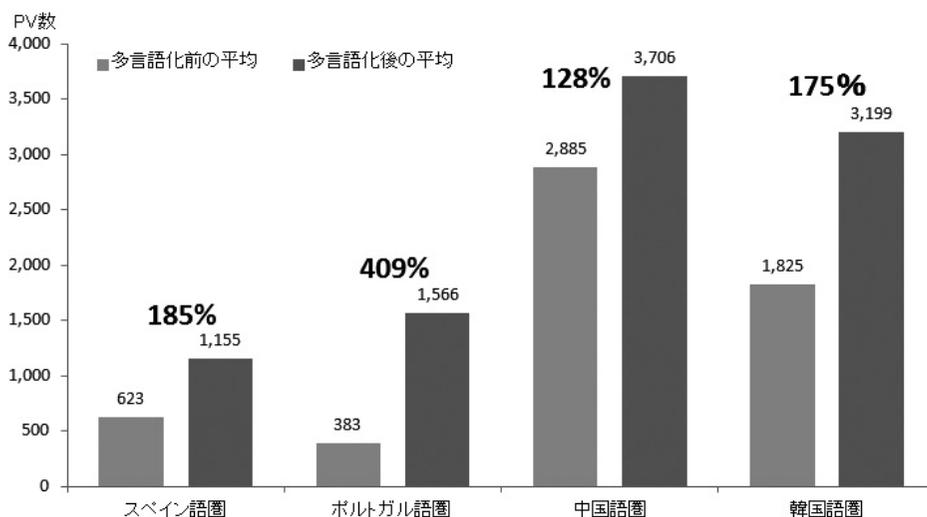


図2：「多言語化」前後の言語別平均 PV と伸び率

また、サイト全体としても「多言語化」前後での月間ページビュー平均数は、約69.6%の増加率となり、「多言語化」によるアクセス数増加の影響は非常に大きいものであった。2012年10月には、さらにフランス語版とインドネシア語版の追加公開を行ったことから、さらなるアクセス数の増加が期待できる。

2.2.2 WEB版「エリン」へのアクセス数と世界の日本語学習者数

本サイトには、2012年8月末現在で201の国・地域からのアクセスが確認されている。以下の図3は、WEB版「エリン」のアクセス数^③を右縦軸に、日本語学習者数（国際交流基金2011、文化庁）を左縦軸に取ったものである。これらアクセス元の国・地域上位20は、日本語学習者数上位の20ヵ国と様相を異にしている。特に顕著なのは、日本語学習者数上位にはあまり現れないドイツ、スペイン、ベトナム、コロンビア、フランス、ロシア、イタリアがアクセス上位

WEB版「エリン」は世界の日本語学習者からどのように受け入れられたか

を維持していることである。

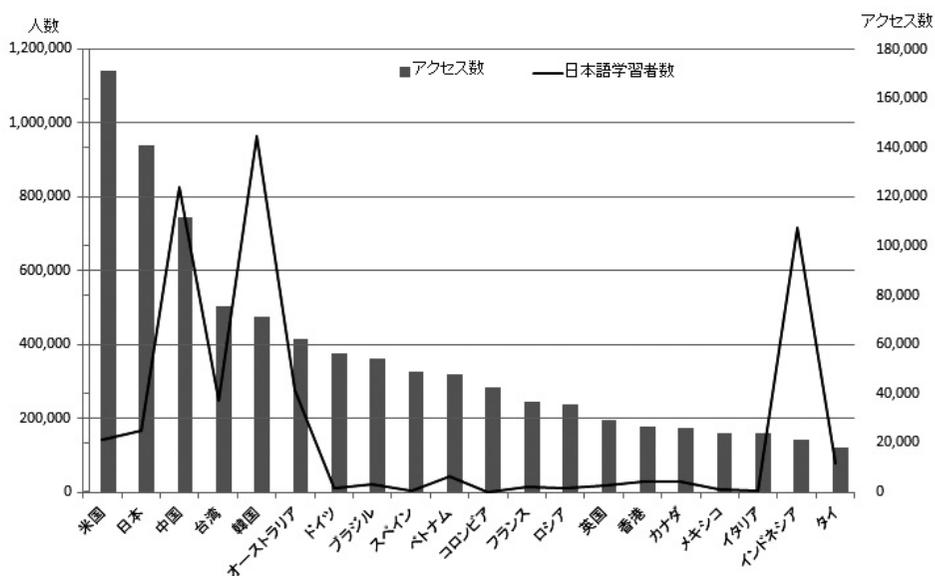


図3：アクセス数上位20ヵ国・地域と日本語学習者数の比較

これは、これまでの「日本語教育機関調査」(国際交流基金)などで学習者数には上がってこなかった独学の学習者など教育機関以外で日本語を学ぶ学習者や、日本語や日本文化に興味はあるがまだ本格的に日本語学習を始めていない人々が、本サイトのユーザーとしてアクセスしていると推測される。これらのユーザーは、自発的にサイトにアクセスし、本サイトが提供するコンテンツを利用する。このようなユーザーが、日本語学習者数の決して多くない国々において潜在的な日本語学習者として存在していることがわかった点は興味深い。

3. アンケート調査

3.1 アンケート調査の概要

3.1.1 2010年度アンケート

サイト公開より1年を経て2011年3月17日から4月22日にかけて、WEB版「エリン」の利用状況と満足度およびユーザーからの意見や要望を調査することを主な目的として、オンライン上で2言語(日本語または英語)によるユーザーアンケートを実施した。調査対象は、サイト登録ユーザー8,936名(2011年3月末時点)で、回答数は946件(日本語での回答340件、英語での回答606件)、回答率は10.1%であった。主な調査項目は、①WEB版「エリン」の使用頻度とサイト全体の役立ち度、②コンテンツごとの満足度、③サイトに対する意見・感想(自由回答)であった。

調査項目①について、WEB版「エリン」が日本語学習に役に立っていると回答したのは全体の93.7%で(図4)、非常に多くのユーザーから日本語学習の効果について肯定的な評価を得ていることがわかった。また、調査項目②についても、すべてのコンテンツで「(1)とても満足している」「(2)まあまあ満足している」という肯定的評価が65.5%~94.2%と大多数で、特に6つのコーナー(基本スキット、応用スキット、大切な表現、これは何?、見てみよう、やってみよう)の「動画の再生」に関しては83.3%~94.2%という高い評価が得られた(図5)。

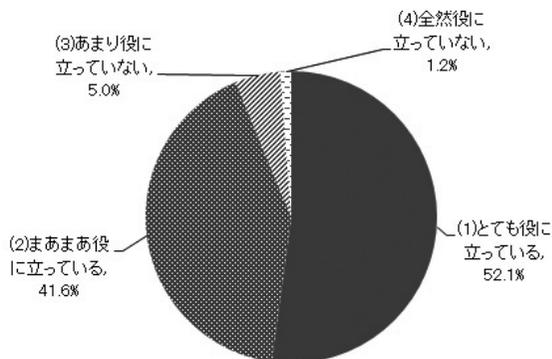


図4：WEB版「エリン」の役立ち度 (2010年度)

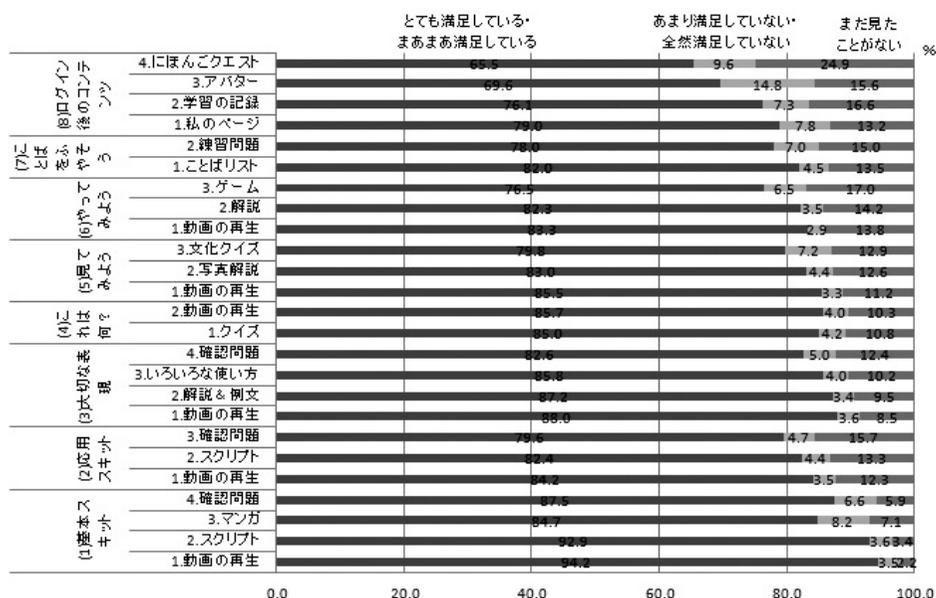


図5：コンテンツごとの満足度 (2010年度)

調査項目③には合計328件の意見や感想が寄せられたが、うち約70%は「楽しい」「役に立っている」「このサイトが好き」といった肯定的評価だった。サイトに関する要望は、「動画を

WEB版「エリン」は世界の日本語学習者からどのように受け入れられたか

表示させるまでに時間がかかる」「動画のサイズが小さい」「動画をダウンロードしたい」など、特に動画に関するものが多く、調査項目②のコンテンツごとの満足度で「動画の再生」は最も高い評価が得られている一方、改善への要望も多いことがわかった。機能やコンテンツの追加を求める声としては、「中国語、韓国語、スペイン語等の翻訳版がほしい」「初級レベル以外のコンテンツも作ってほしい」「最新の日本事情、流行を追加して更新してほしい」「ひらがな・カタカナの表がほしい」などの意見が寄せられた。

3.1.2 2011年度アンケート

2011年4月末の4言語追加を受けて、2012年3月27日から5月11日にかけて、多言語化への評価や利用状況を調査することを主な目的として、オンライン上で6言語（日本語、英語、スペイン語、ポルトガル語、韓国語、中国語）によるユーザーアンケートを実施した。調査対象は、サイト登録ユーザー22,642名（2012年3月末時点）で、回答数は1,800件（言語別の回答数は、日本語292、英語771、スペイン語440、ポルトガル語152、韓国語31、中国語114）、回答率は8.0%であった。主な調査項目は、①WEB版「エリン」の使用頻度とサイト全体の役立ち度、②気に入っているコンテンツ（複数回答可）とその理由、③多言語展開に対する満足度、④実際に閲覧している言語とその理由、⑤サイトに対する意見・感想（自由回答）であった。

調査項目①については、「(1)とても役に立っている」「(2)まあまあ役に立っている」の肯定的評価が95.5%で（図6）、前年のアンケート調査の結果をさらに上回る高評価が得られた。調査項目②の結果については、表3のとおり、基本スキットの動画を評価する意見が圧倒的に多く、また高評価コンテンツ上位10位のうち5つに動画が入っていることから、「エリン」の映像教材としての特徴がユーザーから支持されていることがわかる。

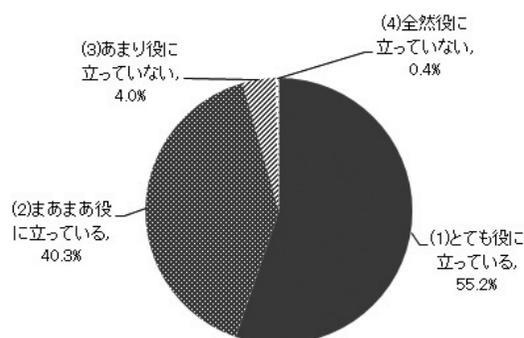


図6：WEB版「エリン」の役立ち度（2011年度）

表3：気に入っているコンテンツ上位10位 (回答言語別)

	コンテンツ	日	英	西	葡	韓	中	合計
1	基本スキット 動画	195	577	371	131	21	72	1367
2	大切な表現 動画	112	355	256	95	9	39	866
3	ことばをふやそう ことばリスト	81	343	264	95	3	45	831
4	基本スキット スクリプト	91	323	262	87	8	44	815
5	応用スキット 動画	111	366	208	72	10	48	815
6	これは何? クイズ	109	321	223	87	9	31	780
7	大切な表現 解説&例文	86	326	231	70	4	44	761
8	見てみよう 動画	138	319	184	70	11	38	760
9	これは何? 動画	111	291	226	74	14	37	753
10	見てみよう 文化クイズ	118	299	203	74	10	46	750
	言語別回答数	292	771	440	152	31	114	1,800

それぞれのコンテンツを気に入っている理由としては、大きく分類して「学習効果」「サイトの使い勝手・学習方法」「コンテンツの内容」の3つに関するものが挙げられた。

最も多かった理由は「学習効果」で、「この教材を使うと学習の効果が上がると実感できる」「動画での学習は理解しやすく効果的」など、日本語教材としての学習効果を高く評価している意見が聞かれた。また、「映像のスピードに合わせてスクリプトを速く読むことで読解の練習に役に立つ」と、制作者の意図しなかった学習方法による効果も明らかになった点が興味深い。

次に多かった理由は「サイトの使い勝手・学習方法」で、サイトの操作性の良さにより学習を続けやすく、動画を中心とした学習方法によってインタラクティブに、かつ興味を持って学習を続けられる点が挙げられ、最近の学習者にとってサイトを通じて外国語を勉強することは十分受け入れられていることが確認できた。3つ目の理由である「コンテンツの内容」については、海外ではあまり触れることのできない日本人の日常的で自然な表現や言葉の使い方や実際の日本の情報、たくさんの数の言葉がこのサイトを通じて学べる点がいいと評価されていた。

調査項目③の多言語化の満足度については、95%のユーザーが肯定的な評価をしており(図7)、学習者が一人で学習することが多いWEB教材であるからこそ多言語版が必要でありWEB教材自体の評価にも関わってくることを確認できた。

WEB版「エリン」は世界の日本語学習者からどのように受け入れられたか

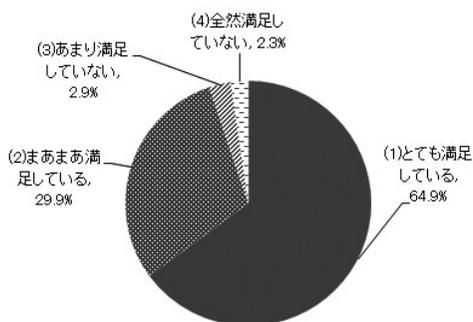


図7：多言語化についての満足度

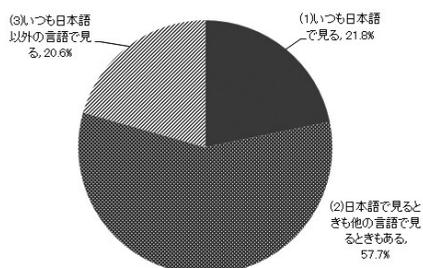


図8：WEB版「エリン」を見る言語

調査項目④のWEB版を閲覧している言語についての質問の結果は、図8のとおり、日本語と他の言語を切り替えて閲覧しているユーザーが57.7%で最も多く、6言語の多言語機能が有効に利用されていることがわかる。また、その理由として最も多かったのは「日本語力が不足しているから」であったが、日本語力の問題だけでなく「サイト内のコーナー名、ボタン、練習問題などの設問は母語（または理解できる外国語）で見る」というように、学習部分は日本語で、その他の操作に関わる機能部分は母語でと、言語を使い分けて効率的に学習を進めている様子もうかがえる。また、制作者の意図しなかったユニークな使い方として、「他の言語も学習しているので、他の言語版も見」「他の言語での表現を比べて見る」と、WEB版「エリン」を使って日本語以外の言語学習を楽しんでいるユーザーもいることがわかった。「(1)いつも日本語で見る」と答えた中で最も多かった理由は、「日本語を学びたいから（読み、漢字、語彙、スピード、話し方等含む）」で、目標言語で閲覧すること自体が日本語学習に結びついていることがわかる。「(3)いつも日本語以外の言語で見る」と答えた中で最も多かった理由は「日本語力が不足しているから」で、ほかに「日本語を読むことが苦手だから」、「母語で見られるから」、「ほかの言語版で見たほうが理解しやすいから」が続いた。

調査項目⑤には857件の自由回答による意見・感想が寄せられたが、「このサイトが好き」「日本語学習に役立っている」「おもしろい」などの肯定的な評価や感謝の感想がほとんどを占めた。特に気に入っている点を具体的に挙げたコメントの中では、「無料であること」が最も多かった。また、「独学する人に向いている」「授業の補助的な教材として利用している」など、WEB版を各自の環境に合わせて活用している様子も垣間見られた。今後、WEB版に求めることとしては「文字学習ができるツール」「新しい動画」「中上級向けのコンテンツ」「よりくわしい文法解説」「練習問題の増量」など学習コンテンツの追加や更新に関するものや、「iPhoneなどのスマホ対応」「ユーザーの音声のアップロード機能」「動画画面の拡大表示」など、サイト自体の機能面の改善を希望するものも見られた。

3.2 結果の考察

2回のアンケートによるユーザー評価の結果、WEB版「エリン」は非常に高い満足度をユーザーから得ていることがわかった。その要因は、WEB版の開発のねらい(1.3参照)でもある、説明の詳細化や練習問題の充実による独学への対応が実際のサイト使用にも活かされ、ユーザーにとって学習効果があると感じてもらえたからであろう。また、WEB版の独自コンテンツとしてゲームやクイズを加えたが、これらは学習者に積極的にアクセスしたいと思ってもらえるようなコンテンツを実装しただけでなく、このサイトができるだけユーザーとインタラクティブであることを目指したからであるが、この点についてもユーザーから評価されており、制作者の意図がユーザーに受け入れられたと言えるだろう。

サイト自体の高評価の理由として最も特筆すべきことは、WEB版の開発により教材のインターネット配信が可能になったことと、すべてのコンテンツが無料提供されている点である。今までの紙媒体やCD・DVDの教材は、日本語教師にとっては日々の授業のために手元に置いておきたいものかもしれないが、インターネットやタブレット端末を日常的に使いこなす若い世代の学習者にとっては特に、むしろどこからでもアクセスできるネット上の教材のほうが学習には適しているかもしれない。教材の制作者にとっても、より多くの学習者に直接教材を届けられたり、教材の更新も簡便に行えたりすることから、インターネットによる提供が効率的であるとも言える。そして、昨今の教材の無料提供やインターネットコンテンツの無料化についての活発な議論や、日本国内ではあるがインターネット利用は無料のものが中心であるというデータがある(総務省2005)ことから、教材の無料提供についても、今後の教材提供のあり方として主流となることも考えられるだろう。

4. 課題と今後の展開

WEB版「エリン」はユーザー登録をしなくてもほとんどすべてのコンテンツが利用できるように作られているが、一方で、ユーザー登録をして利用するユーザーがあまり増えていない点は課題である。ユーザー登録者数は、2010年度末時点では9,404名、2011年度末時点では22,868名、2012年8月末時点では28,017名と、徐々に数を増やしつつあるが、毎月のアクセス数がコンスタントに5万台を記録していることを考えると、まだまだ多い数とは言えない。ユーザー登録をしたユーザーだけが使えるログイン後のコンテンツには、ユーザーがサイトのどのページを学習したかが自動で記録される「学習の記録」や、各課で学習したCan-doをユーザー自身のオリジナルのAvatarで実践できるロールプレイングゲーム「にほんごクエスト」など、日本語学習をサポートするコンテンツが多数備えられている。「エリン」のメインコンテンツだけでなく、WEB版オリジナルのこれらの機能をより効果的に使ってもらうことは今後への課題である。

WEB版「エリン」は世界の日本語学習者からどのように受け入れられたか

今後の展開としては、すでに触れたようにフランス語とインドネシア語の追加により、一層のユーザー獲得を目指していきたい。また、2回のアンケート調査によって、どこにどのようなコンテンツがあるかがわかりづらい、コンテンツの一覧がほしいなどの意見が多く見られたため、トップページも含め、より使いやすい画面仕様に改善していく予定である。

[注]

^① ページビューとは、ある特定のウェブページがブラウザに表示された回数を表す。

^② 年月日記載のものは、放映契約の終了日を表す。

^③ ここで言う「アクセス数」とは、サイトへの訪問数（セッション）を表す。あるユーザーがこのサイトを訪問しいくつかのページを閲覧した後に別のサイトへ移動するまでを1とカウントし、同じ訪問者がくり返し訪問した場合は別にカウントされ、1回の訪問ごとに集計されるものである。

[参考文献]

赤澤幸 (2010a) 「日本語教育ニュース WEB版「エリンが挑戦！にほんごできます。」がオープンしました！」『日本語教育通信』

<<http://www.jpfe.go.jp/japanese/survey/tsushin/news/201006.html>> 2012年9月28日参照

—— (2010b) 「日本語学習と文化理解を融合した素材型映像教材の展開—WEB版「エリンが挑戦！にほんごできます。」の開発」、2010年日本語教育工学会第26回全国大会（金城大学）、『第26回全国大会講演論文集』、879—880、日本教育工学会

磯村一弘、築島史恵 (2006) 「高校生の日本語学習と異文化理解を目指した映像教材の制作」、2006年 ICJLE 日本語教育研究国際大会（コロンビア大学）、『日本語教育国際研究大会—ICJLE 2006—「日本語教育、新時代を迎える』」、79

磯村一弘 (2010) 「日本語学習と文化理解を目的とした独習型ウェブサイトの開発—WEB版「エリンが挑戦！にほんごできます。」における理念と実践—」、第15回ヨーロッパ日本語教育シンポジウム（ブカレスト大学）、『ヨーロッパ日本語教育』第15号、212—220、ヨーロッパ日本語教師会

久保田美子、築島史恵 (2008) 「DVD日本語教材『エリンが挑戦！にほんごできます。』の開発：言語と文化を学ぶ映像教材の設計」、『日本教育工学会研究報告集』2008（1）、39—44、日本教育工学会

国際交流基金 (2011) 『海外の日本語教育の現状 日本語教育機関調査・2009年 概要』国際交流基金
総務省 (2005) 「第1章 特集「u-Japanの胎動」(2) インターネットコンテンツ」『情報通信白書平成17年版』

<<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h17/html/H1205200.html>> 2012年9月28日参照

田中哲哉、上田和子、磯村一弘、熊野七絵 (2010) 「日本語学習者のためのeラーニングサイト開発」、2010年 ICJLE 世界日本語教育大会（台湾国際政治大学）、『2010世界日語教育大会【論文集・予稿集】』（DVD-ROM）、大新書局

文化庁「国語施策・日本語教育」日本語教育実態調査等（平成21年度国内の日本語教育の概要）

<http://www.bunka.go.jp/kokugo_nihongo/jittachousa/h21/gaiyou.html> 2012年9月28日参照

三原龍志 (2008) 「ことばと文化を組み合わせた教室活動—DVD教材「エリンが挑戦！にほんごできます。」を使って」、『ヨーロッパ日本語教育』第13号、252—259、ヨーロッパ日本語教師会

築島史恵 (2007a) 「『考える』映像教材の制作—『エリンが挑戦！にほんごできます。』の試み」『AJALT』

30号、28-32、国際日本語普及協会

—— (2007b) 『『エリンが挑戦！にほんごできます。』—この教材で伝えたい考え方』『日本語教育通信』
第59号、1-3、国際交流基金

—— (2010) 「国際交流基金レポート4 海外のニーズに応える素材型視聴覚教材の開発～DVD教材『エ
リンが挑戦！にほんごできます。』』『日本語学』2010年3月号、88-99、明治書院

築島史恵、久保田美子、磯村一弘(2007)『DVDで学ぶ日本語 エリンが挑戦！にほんごできます。』Vol.1
～3、凡人社